

**平成 31 年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



令和元年 12 月

海老名市立杉久保小学校

平成 31 年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

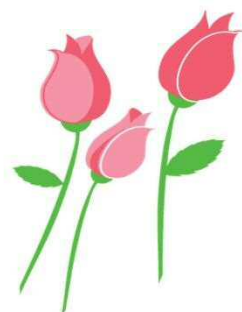
- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

平成 31 年 4 月 18 日（木）



小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・図表やグラフなどを用いた目的を捉える
- ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方や工夫を捉える
- ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む
- ・目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする
- ・目的に応じて、質問を工夫する
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる
- ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題は比較的にできています。
- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む問題は、比較的にできています。

◆課題のある点

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことに課題が見られます。
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題が見られます。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 「漢字の読み書き」では、これまでも日頃の学習の中で積極的に活用する意識を持たせてきました。今後もそのような指導を継続し、授業では作文、新聞・リーフレットづくりなどで積極的に漢字を使わせる指導をし、家庭学習では日記・短文づくり等で経験を多く積ませていきます。
- 「書くこと」では、「読むこと」と関連付けて、国語辞書や漢字辞典の利用を習慣づけたり、読書や新聞の活用をしたりする指導を継続していきます。
- 「書くこと」の指導では、スモールステップで書く内容を整理させたり、シンキングツールを利用して思考を整理させたりして、自分の考えを明確に持たせるようにします。
- 総合的な学習の時間の学習の中で国語科と関連させ、調べ学習や発表する活動を通して、「書くこと」や「読むこと」等の指導を意図的・計画的に行います。

小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・台形について理解している
- ・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる
- ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる
- ・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる
- ・2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる
- ・資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる
- ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる
- ・示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる
- ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる
- ・示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる
- ・示された除法の式の意味を理解している
- ・目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる
- ・示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる
- ・場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答え方を記述し、その結果から判断できる

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算する問題はできています。
- 向かい合った一組の辺が平行な四角形を台形ということ、また、図形の構成要素およびそれらの位置関係に着目し理解することはできています。
- 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることはできています。

◆課題のある点

- 加法と乗法が混合した整数と小数の計算について、課題が見られます。
- 場面の状況から、単位量当たりの大きさをもとに、求め方と答えを記述したり、その結果から判断したりする力に課題が見られます。
- 二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する力に課題が見られます。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 学習内容の定着を図るための繰り返し学習や、学習形態の工夫等、指導方法を充実させるとともに、「式、図、言葉に関連付けて説明する」ことができるような指導を継続していきます。
- 日常生活の事象を、既習事項を活用して数学的に解釈し、事柄を適切に判断したり、その理由を数学的に表現したりする場面を、今後も学習の中に意図的に取り入れるようにしていきます。
- 目的に応じて、必要な資料を収集し、複数の資料の特徴や傾向を関連付けたり、一つの資料からは判断することができない事柄は何かについて判断したりすることができるような学習課題を意図的に取り入れる等、学習課題を工夫していきます。

児童質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

- 「国語の勉強は大切だと思いますか」「算数の勉強は大切だと思いますか」という設問では、当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた児童は、国語 96.9%、算数 97%と県や全国の平均を上回っています。
- 学習に対して前向きに取り組んでいる児童が多いです。
- 国語や算数の学習は大事だと思っている児童は多いです。

◆本校の課題と思われるところ

- 国語や算数の学習を好きだと思っている児童の割合はやや低かったです。(国語 67%、算数 73.2%)
- 「学校の授業時間以外に、普段どれくらい学習していますか。」という設問では、3時間以上と回答した児童の割合は 12.4%、2時間以上3時間より少ないと回答した児童の割合は、14.4%、1時間以上2時間より少ないと回答した児童の割合は、25.8%、30分以上1時間より少ないと回答した児童の割合は、28.9%、30分より少ないと回答した児童の割合は、10.3%、全くしないと回答した児童の割合は 8.2%と家庭学習を積極的にしている児童の割合が低い傾向にあります。

生活について

◆本校のよかったところ

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という設問では、当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた児童は96.9%と県や全国の平均を上回っています。
- 「自分には、よいところがありますか」という設問では、当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた児童は、82.4%と県や全国の平均を上回っています。

◆本校の課題と思われるところ

- 平日における家庭での学習時間が30分未満の児童が約10%、全くしていない児童が約8%でした。また、家で自分で計画を立てて勉強をする習慣がない児童が約34%でした。過去2年間と比べると、ポイントは少しずつ増えてはいますが、県や全国の平均と比べると、やや低くなっていました。

今後の具体的な取組について

- 家庭学習の充実を目指し、学年の発達段階を踏まえ、系統的な学習のあり方を検討していきます。その際、保護者の理解と協力を得るため、連携を十分に図っていきます。
- 携帯電話やスマートフォンに関する子どもへの「ネチケツ」を学ぶ機会を設けるとともに、保護者へ様々なネットトラブルの現状や気をつけたいことを継続して伝えていきます。
- 児童が学習に対して前向きな気持ちを維持したまま、学習したことを活用できている実感がもてるように支援していきます。
- 家庭での学習習慣をつけさせるために、発達段階に合わせた宿題を出すようにします。

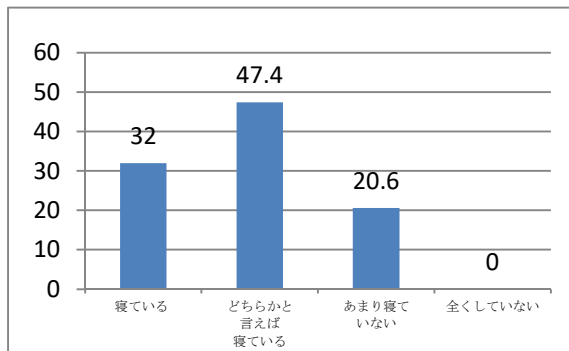
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成 31 年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

1

睡眠時間を確保 しましょう。

体をつくる成長期の子どもたちにとって、睡眠は大切です。早寝・早起きを心がけさせてください。

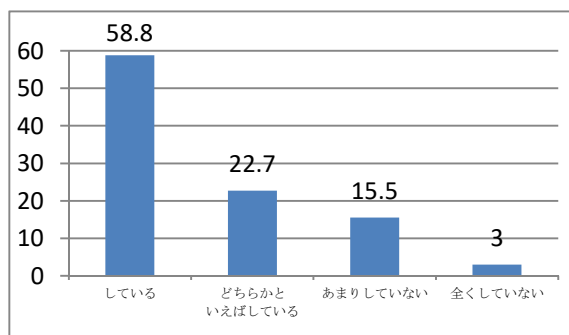


毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

2

家庭でのコミュニケーションを増やしましょう。

お子さんの話にしっかり耳を傾け、学校での出来事や友達関係といった様子を見取ってください。

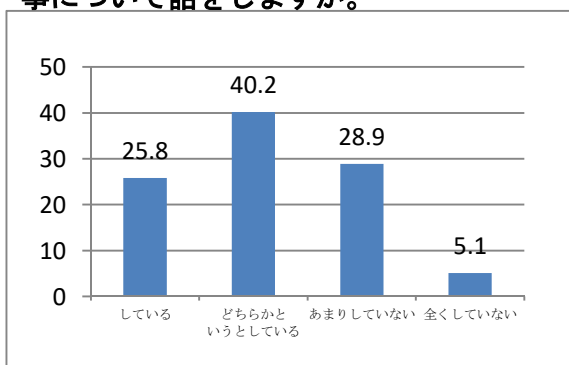


家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。

3

自分で計画を立てて勉強 しましょう。

自分で目標を決めて学習することができるように、学習環境を整えたり意欲をもたせたりすることが大切です。

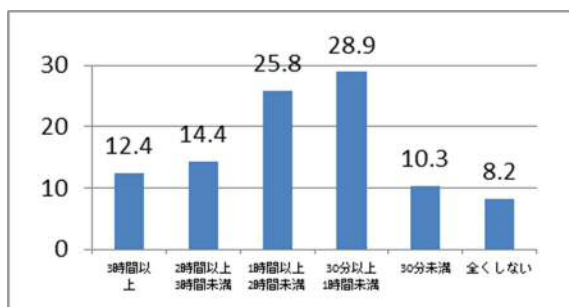


家で計画を立てて勉強をしていますか。

4

毎日、家庭学習の時間を 決めて勉強しましょう。

毎日の積み重ねが、学習の定着につながります。時間や場所を決める等の学習習慣が大切です。



普段一日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(塾・家庭教師を含む)

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学 校 生 活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

結果の公表にあたって

○公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。
全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

○公表することによって、保護者や市民の皆様により市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

○「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係



すぎまる、がんばります！